

8

万 一 の と き

工具、ジャッキ、スペアタイヤ

工具	8-2
ジャッキ	8-3
応急用スペアタイヤ	8-8

パンクしたとき

パンクしたとき	8-10
タイヤ交換（応急用スペアタイヤ）	8-10
応急用パンク修理（5ドア）	8-15

発炎筒

発炎筒について	8-27
---------	------

故障したとき

踏切で動けなくなったとき	8-29
高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき	8-29
路上で動けなくなったとき	8-30
故障時の対応方法と連絡先	8-30

けん引のとき

けん引してもらうとき	8-31
他車をけん引するとき	8-35

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき	8-37
-------------	------

事故が起きたとき

対処のしかた	8-39
--------	------

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーが上がったとき	8-40
ヒューズの点検・交換	8-43
電球（バルブ）の交換	8-50
セレクターレバーが動かないとき（CVT車）	8-70
リヤゲートの解錠ができなくなったとき（5ドア）	8-71
アクセスキーが正常に作動しないとき	8-72

工具、ジャッキ、スペアタイヤ

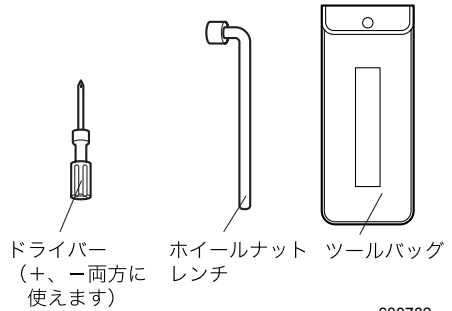
工具

次の工具が装備されています。

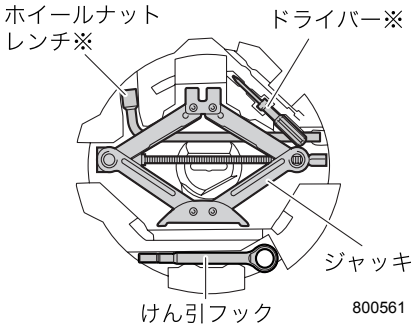
- 基本工具（ドライバー、ホイールナットレンチ）
- ジャッキ、ジャッキハンドル
- けん引フック

工具は定められた場所に置いておくと、万一のときすぐに取り出せます。使用後は元の場所に戻してください。

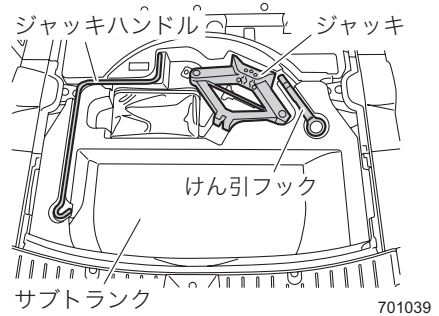
4ドア車のジャッキおよびけん引フックはジャッキホルダーに、5ドア車はカーゴルーム床下に格納されています。



4ドア



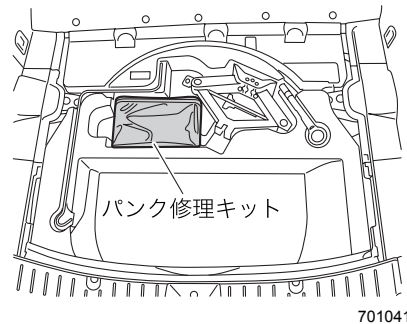
5ドア



※ 4ドア車はドライバー、ホイールナットレンチをジャッキホルダーに格納することができます。

5ドア車は、パンク修理キットがカーゴルーム床下に収納されています。

☆8-15ページ参照



ジャッキ

警告

- ジャッキアップしたらエンジンを始動しないでください。車が発進したり、ジャッキが外れるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ジャッキアップしたら車内に入ったり、車体に振動を与えないでください。ジャッキが外れることがあり危険です。
- ジャッキアップしたら車両の下にもぐり込まないでください。ジャッキが外れると重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

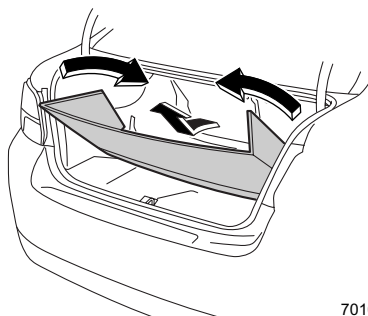
- ジャッキはタイヤ交換あるいはタイヤチェーンの脱着以外に使わないでください。
- ジャッキは必ず車載されたものを使い、他の車のジャッキは使わないでください。車載のジャッキ以外のものを使用した場合、ジャッキが外れたり、車体を变形させるおそれがあります。また、車載されたジャッキは他車には使わないでください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- 同乗者がいる場合は、必ず車から降るしてください。
- ジャッキ使用前に駐車ブレーキを確実にかけ、CVT車はセレクトレバーを **P** に、マニュアル車はチェンジレバーを“R”または“1”にしてください。
- 輪止め（タイヤストッパー）などをして車を固定してください。
- ジャッキと車両の間に台やブロックなどを挟まないでください。
- ガレージジャッキなどを使用してジャッキアップする場合、スバル販売店にご相談ください。

■ジャッキ、ジャッキハンドルの取り出し方

●4ドア

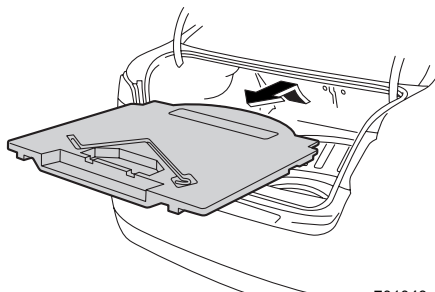
トランクルームの床下に収められています。

- ① トランクルーム床のリッド（フタ）を取り出します。



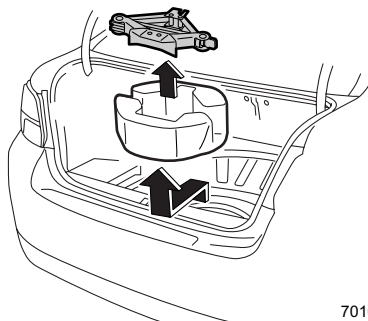
701042

- ② サブトランクを取り出します。



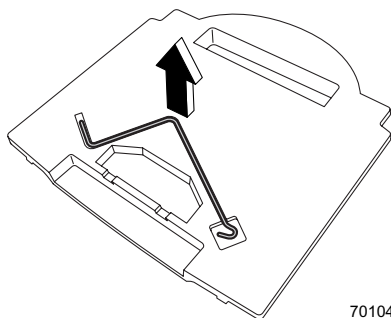
701043

- ③ ジャッキホルダーからジャッキを取り出します。



701044

- ④ サブトランクに収められているジャッキハンドルを取り出します。

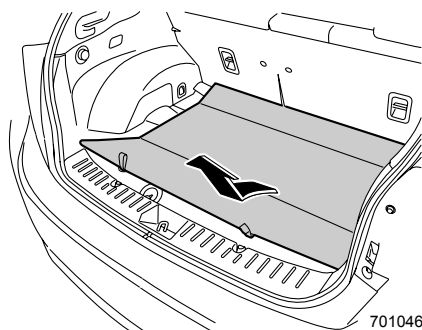


701045

●5ドア

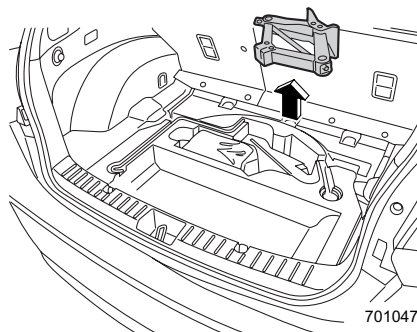
カーゴルームの床下に収められています。

- ① カーゴルームのリッド（フタ）を開けます。



701046

- ② ジャッキホルダーからジャッキを取り出します。



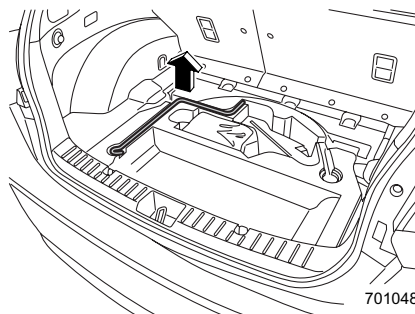
701047

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

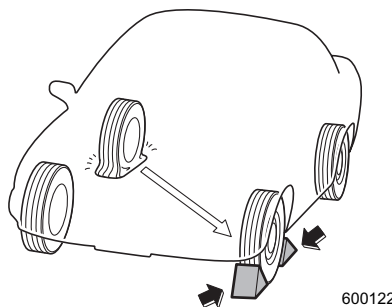
⇒前ページより

- ③ ジャッキハンドルを取り出します。



■ ジャッキの使いかた

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
マニュアル車はチェンジレバーを“R”または“1”に、CVT車はセレクトレバーを[P]に入れます。
- ② 車が動き出さないように、交換またはタイヤチェーンを脱着するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め（タイヤストッパー）をします。
(図は運転席側後輪タイヤを交換する場合を示しています。)

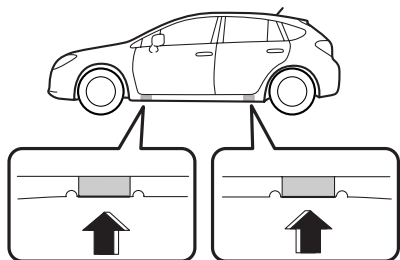


- ③ ジャッキハンドル、ジャッキを取り出します。

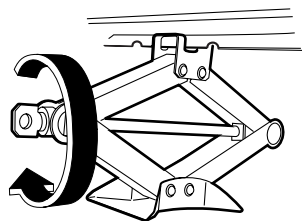
アドバイス

輪止め（タイヤストッパー）は車載されていませんので必要に応じて準備してください。

- ④ 交換またはタイヤチェーンを脱着するタイヤに近いジャッキアップポイントの下にジャッキを置き、ジャッキ頭部の溝が車体のジャッキアップポイントにはまるまでジャッキを手で回します。



701051

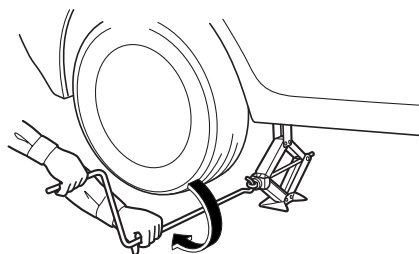


701123

注意

ジャッキが確実に車体のジャッキアップポイントにかかっていることを確認してください。
ジャッキアップポイント以外にジャッキがかかっているとジャッキが倒れてけがをしたり、車体を傷つけるおそれがあります。

- ⑤ ジャッキにジャッキハンドルを取り付けます。ジャッキハンドルを回し、タイヤが地面から少し離れるまで車体を上げます。



700539

応急用スペアタイヤ

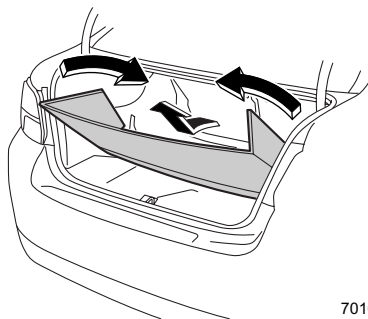
5ドア車には応急用スペアタイヤがありません。応急用のパンク修理キットが装備されています。

☆8-15ページ参照

■スペアタイヤの取り出し方

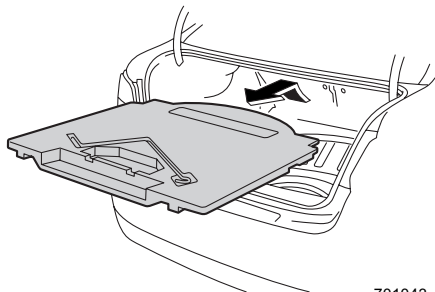
トランクルームの床下に収められています。

- ① トランクルーム床のリッド（フタ）を取り出します。



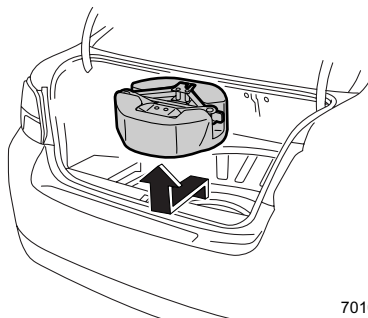
701042

- ② サブトランクを取り出します。



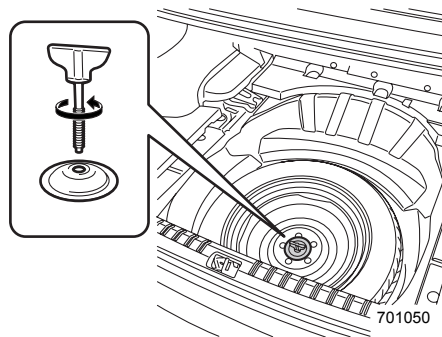
701043

- ③ ジャッキホルダーを取り出します。



701049

- ④ スペアタイヤを固定しているネジを外し、スペアタイヤを取り出します。



注意

応急用スペアタイヤは、標準タイヤがパンクしたとき応急用としてのみ使用するタイヤです。応急用スペアタイヤのホイールに貼ってある注意書をよく読み、使用するときは次のことを守ってください。

- 応急用スペアタイヤの空気圧は空気圧ゲージを使用して必ず点検してください（月1回程度）。空気圧が不足している状態で走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
空気圧：420 kPa（4.2 kgf/cm²）（走行前のタイヤが冷えているとき）
- 指定（車載）の応急用スペアタイヤを使ってください。
この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使用しないでください。
- 応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは直ちに修理し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100 km/h以下の速度で走行してください。
- 前輪がパンクしたときは、後輪のタイヤを前輪につけ、後輪に応急用スペアタイヤを装着してください。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。雪道、凍結道路で前輪がパンクした場合も同様に応急用スペアタイヤを後輪に使用し、外した後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。
- 応急用スペアタイヤを装着しているときは、標準タイヤ装着時に対し車高が低くなります。突起物などを乗り越えるときは、同じ感覚で運転すると下部をぶつけるおそれがあります。
- ウエアインジケータが現れたら新品の応急用スペアタイヤと取り替えてください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときはスバル販売店にご相談ください。

パンクしたとき

パンクしたとき

注意

- 同乗者がいる場合は、必ず車から降りてください。
- 平坦で硬いところに駐車して作業してください。
- タイヤを取り付けた後、1,000 km程度走行したら、もう一度規定の力で締め付けてください。

☆8-13ページ参照

- 車体に振動がでたらスバル販売店で点検整備を受けてください。パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などが原因でホイールバランスが狂うことがあります。

タイヤ交換（応急用スペアタイヤ）

応急用スペアタイヤが装備されていない車両は、車載のパンク修理キットで応急修理をしてください。

☆8-15ページ参照

- ① 交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。

注意

地面が平坦で硬く、車が安定する安全な場所を選んで止めてください。

- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
マニュアル車はチェンジレバーを“R”または“1”に、オートマチック車はセレクトレバーをPに入れます。
- ③ 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
- ④ 車が動き出さないように、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止め（タイヤストッパー）をします。
- ⑤ ジャッキハンドル、ジャッキ、応急用スペアタイヤ、工具を取り出します。

☆8-2、8-8ページ参照

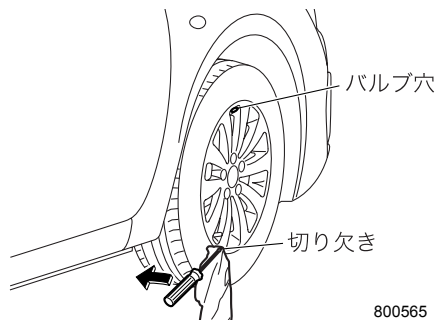
- ⑥ 応急用スペアタイヤを、交換するタイヤ近くの車体の下に置きます。

アドバイス

輪止め（タイヤストッパー）および停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので必要に応じて準備しておいてください。

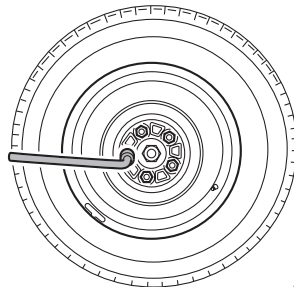
- ⑦ ジャッキをセットします。
 ☆8-6ページ参照

- ⑧ フルホイールキャップ装備車は、バルブ穴と反対側にある切り欠き部にドライバーを差し込み、ドライバーをタイヤ側に動かしてこの原理でフルホイールキャップを取り外してください。



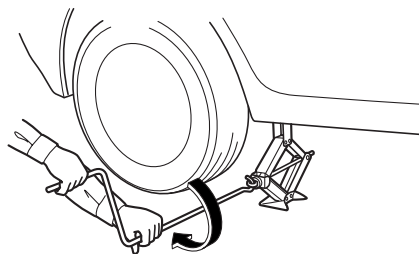
800565

- ⑨ ホイールナットレンチを使い、全てのホイールナットを約半回転ゆるめます。



700598

- ⑩ タイヤが地面から少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



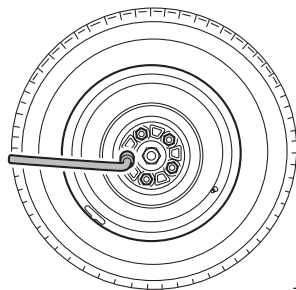
700539

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

⇒前ページより

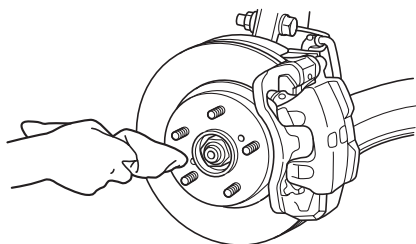
- ⑪ ホイールナットを外します。



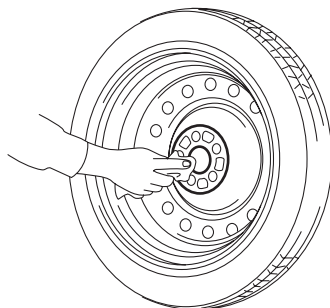
700598

- ⑫ タイヤを付け替えます。

このとき、ホイール取付部とホイールの接触面の汚れを拭き取ってください。



600061



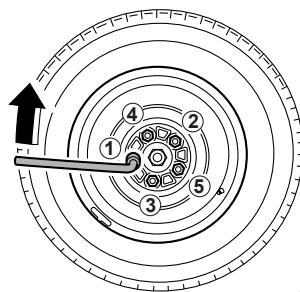
600162

🏠 アドバイス

タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

- ⑬ ホイールナットを手で回して取り付けます。その後ホイールがガタつかない程度までホイールナットをホイールナットレンチで仮締めします。
⑭ ジャッキハンドルを回し、車両を下げます。

- ⑮ ホイールナットレンチを使用して、図の順番に2、3回にわけてホイールナットを締め付けます。



600192

レンチの柄の先端にかける力	締付トルク (参考)
400~500 N (40~50 kg)	100 N・m (10 kg・m)

⚠ 注意

- ホイールナットを締め付けるとき、ホイールナットレンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め過ぎないでください。
- ナット、ホイールの座面、ネジ部にオイルやグリースなどがつかないようにしてください。油脂がついていると締め過ぎの原因になります。

- ⑯ パンクしたタイヤおよび、ジャッキ、ジャッキハンドル、工具を元の場所に格納します。
- ⑰ タイヤ交換後、最初はゆっくり走り異音や振動がないか確かめます。
その後は、できるだけ早く応急用スペアタイヤから標準タイヤに交換してください。

■ タイヤ交換後

- ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチを元の場所へ戻します。外したサブトランクは荷室に入れてください。

☆8-2ページ参照

- 最初はゆっくり走り、異音や振動がないか確かめます。
- 処置後はすみやかに応急用スペアタイヤから標準タイヤに交換してください。

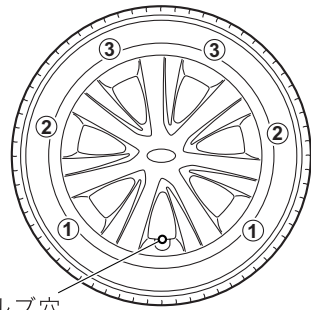
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

⇒前ページより

フルホイールキャップ装備車は、以下の手順でカバーを取り付けてください。

- ①フルホイールキャップをバルブ穴へ通します。
- ②バルブ側から順に、フルホイールキャップを左右同時に軽くたたいて、確実に取り付けてください。

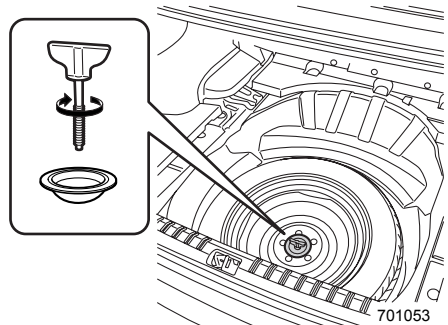


バルブ穴

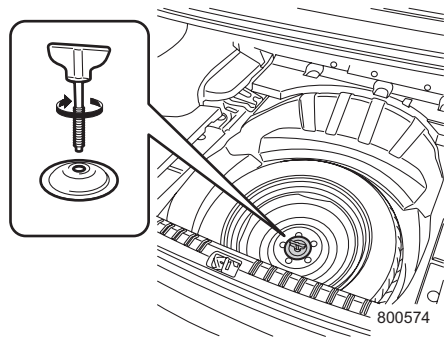
701054

■パンクしたタイヤの格納

- センターキャップ付ホイール装備車は、センターキャップを取り外してください。
- スペアタイヤが格納されていた場所にします。スペーサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。



- パンク修理後、応急用スペアタイヤを戻すときはスペーサーを必ず図の向きにしてネジを取り付けます。



応急用パンク修理（5ドア）

応急用スペアタイヤが装備されていない車両は、車載のパンク修理キットで応急修理をしてください。釘やネジなどが刺さった軽度のパンクが一時的に補修できます。パンク修理の際は、作業をスムーズにするため本取扱説明書をお読みになってから作業してください。

警告

パンク修理キットはパンクタイヤの応急修理のみに使用してください。パンク修理以外に使用すると重大な事故やけがをすることがあります。

注意

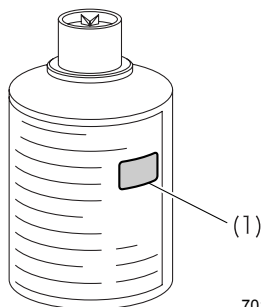
- 修理剤を誤って飲用した場合は、できるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- 修理剤が目や皮膚についた場合は、水でよく洗い流してください。また、異常を感じたら医師の診断を受けてください。
- お子さまが誤って修理剤に手を触れないようご注意ください。
- コンプレッサーを使用するときは、次のことをお守りください。コンプレッサーの故障の原因となります。
 - － 10分以上連続して作動させないでください。
 - － 水をかけないでください。降雨時の作業では水がかからないよう作業してください。
 - － 砂地など砂埃の多い場所で使用しないでください。
 - － 本体が熱を持ち、作動が鈍くなったら使用を中止してください。再使用するときは、コンプレッサーが冷えたことを確認してから使用してください。
 - － 分解・改造などは行わないでください。また、衝撃を与えないでください。

🏠 アドバイス

- 次の場合は、応急修理ができません。スバル販売店やJAFロードサービスなどに連絡してください。

- － 修理剤の有効期限が過ぎているとき

(1) 有効期限表示

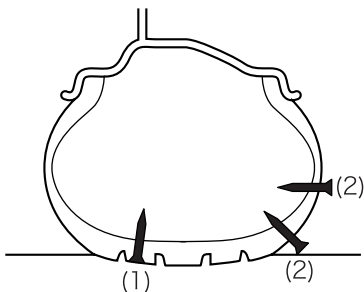


701055

- － 接地部以外が損傷を受けパンクしているとき

(1) ○

(2) ×



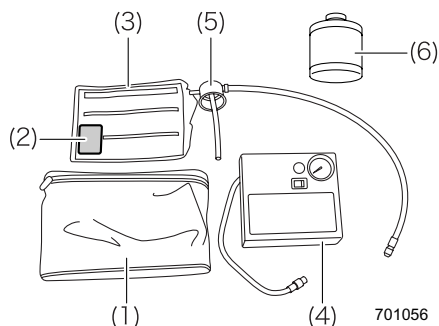
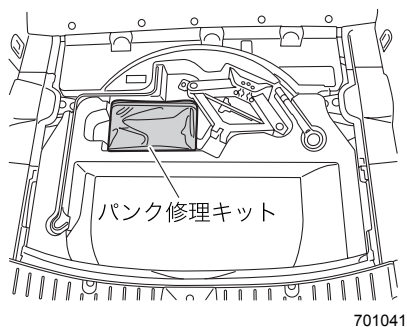
700921

- － タイヤが2本以上パンクしているとき（修理剤1本につき、修理できるタイヤは1本です）
- － ほとんど空気が抜けている状態で走行したとき
- － タイヤがホイールから外れているとき
- － ホイールが損傷しているとき
- 修理剤には有効期限があります。有効期限が切れる前に交換してください。交換についてはスバル販売店にご相談ください。
- 修理剤は衣服などに付着すると取れなくなるおそれがあります。

■パンク修理キット

パンク修理キットはカーゴルーム床下に収納されています。

- ケース (1)
- 速度制限シール (2)
- クイックリファレンス (3)
- コンプレッサー (4)
- 注入キャップ (5)
- 修理剤 (6)



●修理する前に

- ① 交通の妨げにならず、安全に作業ができる場所に車を止め、エンジンを止めます。

⚠ 注意

地面が平坦で硬く、車が安定する安全な場所を選んで止めてください。

- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③ 非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させ、人や荷物を降ろし、停止表示板（停止表示灯）を使用します。
- ④ カーゴルームのリッド（フタ）を開け、パンク修理キットを取り出します。

⚠ 注意

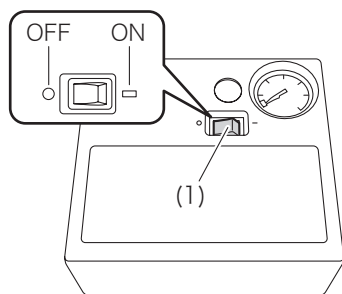
- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かず応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、パンク修理キットの修理剤では応急修理ができなくなる場合があります。
- パンク修理キットは、搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

🏠 アドバイス

停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備しておいてください。

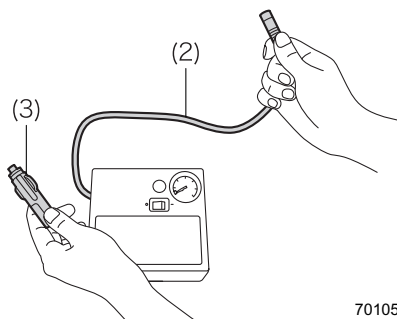
●修理のしかた

- ①コンプレッサーの電源スイッチ (1) がOFFの位置にあることを確認します。



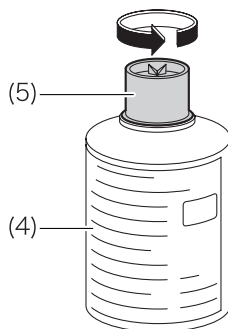
701057

- ②コンプレッサー本体の裏側からホース (2) と電源コード (3) を取り出します。



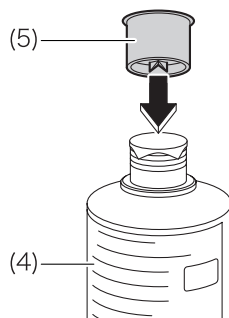
701058

- ③修理剤 (4) のボトルをよく振ってから、キャップ (5) を外します。



701059

- ④ キャップ (5) の上側にある突起部で、修理剤 (4) のアルミシールに穴を開けます。

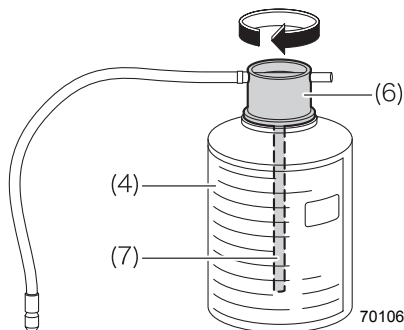


701060

注意

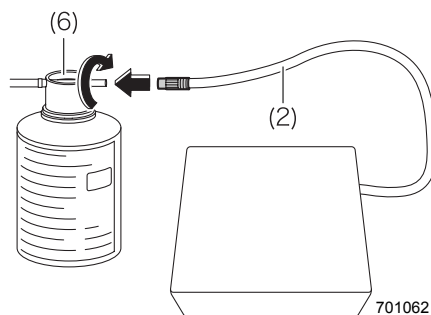
修理剤をこぼさないようにしてください。

- ⑤ 修理剤 (4) のボトルに注入キャップ (6) のチューブ (7) を差し込み、注入キャップ (6) を確実に取り付けます。



701061

- ⑥ コンプレッサーのホース (2) 先端部を、注入キャップ (6) に確実に取り付けます。



701062

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

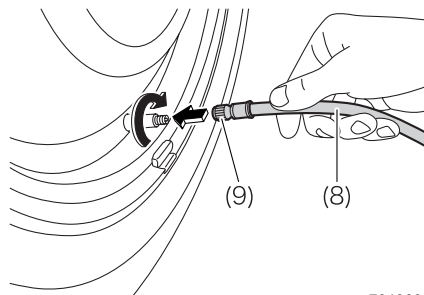
⇒前ページより

注意

コンプレッサーおよびバルブを接続するときは、ホースのねじれに注意してください。

⑦ 損傷したタイヤのバルブキャップを外します。

⑧ 注入キャップゴムホース (8) 先端のバルブ金具 (9) を損傷したタイヤのバルブに確実に差し込みます。

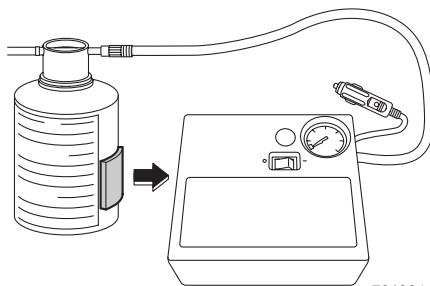


701063

注意

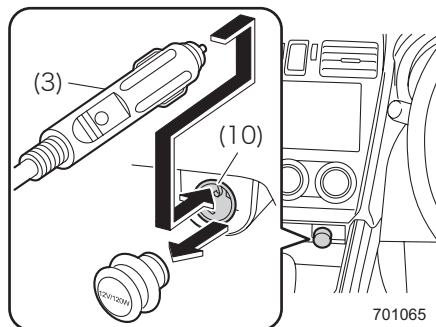
バルブ金具のねじ込みが足りないと修理剤が漏れるおそれがあります。

⑨ 修理剤 (4) のボトルが倒れないように、面ファスナーでコンプレッサーに固定します。



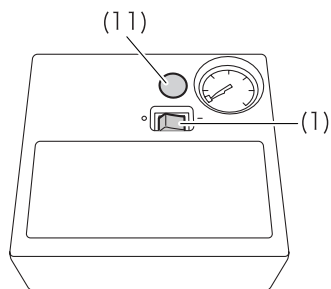
701064

- ⑩ 電源コード (3) を電源ソケット (10) に確実に差し込みます。



701065

- ⑪ エンジンスイッチをACCにします。
- ⑫ タイヤの側面に亀裂や傷、へこみがないことを確認し、コンプレッサーの電源スイッチ (1) をONにして修理剤と空気を注入します。



701066

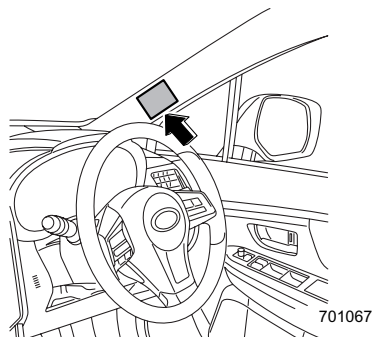
⚠ 注意

コンプレッサーの側から離れ、タイヤ側面に亀裂やへこみがないか確認します。コンプレッサーの作動中、タイヤ側面に亀裂やへこみなどの損傷を確認した場合は直ちにコンプレッサーを停止し、コンプレッサーのエア抜きボタン (11) を押して空気を抜いてください。この場合、パンク修理キットによる応急修理はできません。スバル販売店またはJAFロードサービスなどに連絡してください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

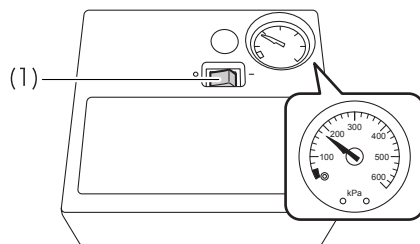
- ⑬ 速度制限 (80km/h) シールを取り出し、ドライバーからよく確認できる位置に速度制限シールを張ります。



注意

速度制限シールは、ハンドル中央部やダッシュボードには貼らないでください。SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。また、メーターの警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置に貼らないでください。

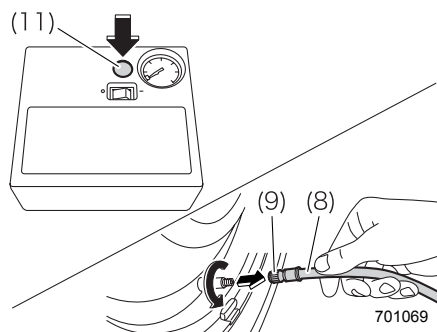
- ⑭ タイヤの空気圧が最低 180kPa になったら、コンプレッサーの電源スイッチ (1) を OFF にします。



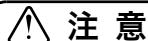
注意

- 修理剤を注入しているとき、空気圧は一時的に 300 kPa 以上に高くなりますが、修理剤が全て流れ込むと空気圧は下がります。
- 10分以上エアを入れてもタイヤの空気圧が最低180kPaにならない場合、タイヤがひどい損傷を受けているおそれがあります。この場合、パンク修理キットによる応急修理はできません。スバル販売店または JAF ロードサービスなどに連絡してください。

- ⑮ コンプレッサーのエア抜きボタン (11) を押しながら、注入キャップゴムホース (8) 先端のバルブ金具 (9) を、タイヤのバルブから外します。



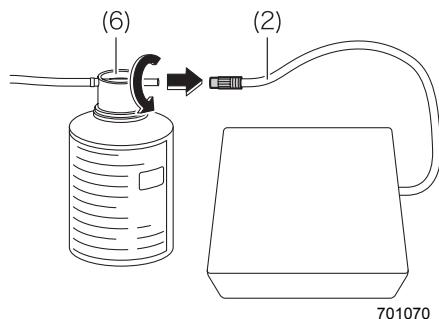
- ⑯ タイヤのバルブキャップを取り付けます。



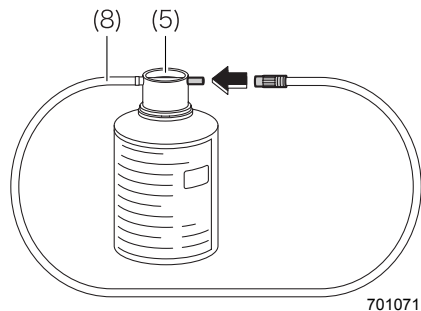
注意

バルブ金具の取り外しは、すばやく行ってください。

- ⑰ コンプレッサーのホース (2) を、注入キャップ (6) から外します。



- ⑱ 修理剤がこぼれないように、注入キャップゴムホース (8) 先端のバルブ金具 (9) を、すばやく注入キャップ (5) の空いている口につないでください。



次ページへ ⇒

⇒前ページより



注意

修理剤が皮ふや衣類に付着しないよう注意してください。

- ⑩ パンク修理キットを車両に搭載して直ちに走行します。走行は法定速度を守って、80km/h以下の速度で急ハンドルなどを避け、慎重に運転してください。



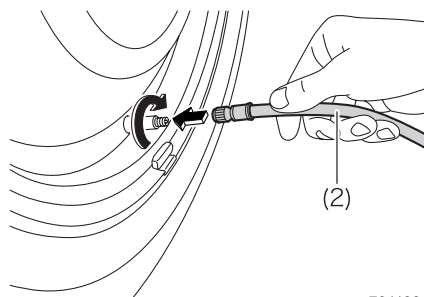
注意

- 走行中異常を感じたときは、運転を中止してスバル販売店またはJAFロードサービスなどに連絡してください。修理剤の補修が完了していない場合、空気圧が低下して安定性を損なうおそれがあります。
- パンク修理キットとボトルが動かないよう確実に固定してください。急ブレーキなどでパンク修理キットとボトルが乗員に当たり、けがをするおそれがあります。

- 20 10分間または5km程度走行した後、安全な場所に車を止め、コンプレッサーに付属の空気圧計を使用してタイヤの空気圧を点検します。
タイヤ空気圧のラベルは運転席側のドアを開けたボディ側に貼られています。

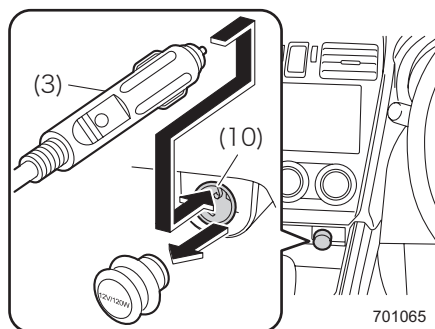
☆9-5ページ参照

- 21 応急修理したタイヤのバルブキャップを外します。
- 22 コンプレッサーのホース (2) 先端部を、応急修理したタイヤのバルブに確実に差し込みます。



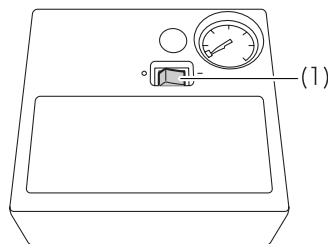
701133

- 23 電源コード (3) を電源ソケット (10) に確実に差し込みます。



701065

- 24 コンプレッサーの電源スイッチ (1) をONに切り替え、数秒間ONにしてからOFFにしてください。



701136

- 25 タイヤの空気圧が130kPa以上のときは、タイヤの指定空気圧まで空気を入れます。タイヤの空気圧が130kPa未満のときは、修理剤による応急修理はできません。運転を中止してスバル販売店またはJAFロードサービスにご連絡ください。

⚠ 注意

応急修理したタイヤで200km以上の距離を走行しないでください。

🏠 アドバイス

寒冷時は修理完了までの時間、走行距離が長くなる場合があります。この場合、手順⑱から 25 の作業を繰り返してください。作業を繰り返しても空気圧が低下する場合は応急修理ができません。運転を中止してスバル販売店またはJAFロードサービスに連絡してください。

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

⇒前ページより

26 すみやかにスバル販売店まで急ハンドルなどを避け、慎重に運転し点検を受けてください。



アドバイス

- パンク修理キットを使用したときは、タイヤおよびタイヤのバルブを新品に交換してください。

☆7-10ページ参照

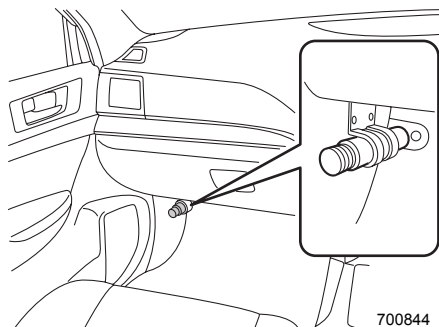
- 使用したパンク修理キットは、修理剤、ホース、速度制限シール、注入キャップを交換してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

発炎筒

発炎筒について

グローブボックス左下に発炎筒を備えています。

発炎筒の外筒に書いてある使用方法を、あらかじめ確認しておいてください。



700844

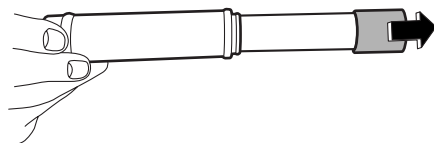
■使いかた

- ① ケースをひねり、本体からケースを取り外します。



600029

- ② ケースを本体の後部に取り付け、本体の白いキャップを取り外します。



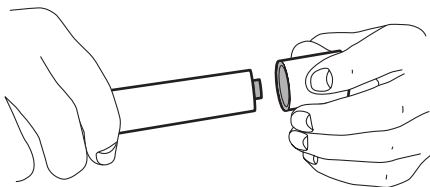
600030

万
一
の
と
き

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ③ 本体の先端を、キャップ頭部のすり薬でこすると着火します。



600031

警告

- 発炎筒をお子さまにはさわらせないでください。いたずらなどにより発火し、やけどや火災につながるおそれがあります。
- 燃料など可燃物のそばで使わないでください。引火することがあります。
- 筒先を顔や体に向けたり、人に近づけたりしないでください。やけどをすることがあります。
- トンネルの中で使わないでください。煙が視界を悪くするので危険です。トンネルの中では非常点滅灯（ハザードランプ）を使用してください。

☆3-24ページ参照

アドバイス

- 発炎筒は常に使えるようにしておいてください。
- 発炎筒には有効期限が明記されています。有効期限が切れる前にスバル販売店でお求めください。

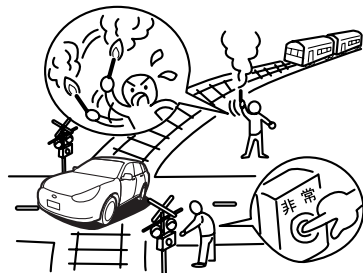
故障したとき

踏切で動けなくなったとき

踏切で脱輪などにより脱出できない場合は、踏切の非常ボタンを押してください。

非常ボタンがない場合、位置がわからない場合、緊急を要する場合は、発炎筒を使い合図をしてください。

☆8-27ページ参照



800462

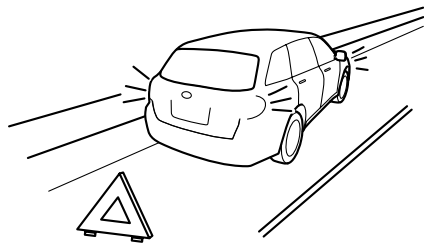
アドバイス

エンジンスイッチをSTARTに保持、またはプッシュエンジンスイッチを押し続けても（スターターを回している状態）、一時緊急的に車を動かすことはできません。

- CVT車はセレクトレバーが[P]または[N]以外ではスターターは回りません。
- マニュアル車はクラッチペダルを踏まないとスターターが回りません。

高速道路、自動車専用道路で動けなくなったとき

- ① 車を路肩など安全な場所に止め、非常点滅灯（ハザードランプ）を点滅させ、車の後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。



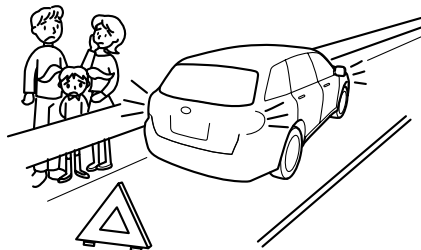
800463

次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

⇒前ページより

- ② 全員車から降り、ガードレールの外など安全な場所に、すみやかに避難してください。



800464

- ③ 安全を確保後、救援をたのみます。

🏠 アドバイス

- 停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。
- 停止表示板（停止表示灯）は車載されていませんので、必要に応じて準備してください。

路上で動けなくなったとき

- ① あわてず、もう一度エンジンをかけてみてください。

☆3-43、3-49ページ参照

- ② エンジンがかからないときは、同乗者や付近の人に押しってもらって安全な場所へ移動してください。

移動するときはチェンジレバーを“N”（マニュアル車）、もしくはセレクトレバーを **N** (CVT車) にします。

☆3-52、3-54ページ参照

故障時の対応方法と連絡先

- ① 車を安全な場所に移動するなど、可能な範囲で安全を確保してください。
- ② 最寄りのスバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡し、ご相談ください。
- ③ スバル販売店、スバル指定サービス工場に連絡が取れない場合はJAFロードサービスなどに連絡し、ご相談ください。

🏠 アドバイス

- スバル販売店、スバル指定サービス工場とJAFロードサービスの連絡先は「スバルサービスネットワーク」に記載されています。
- 万一のために、JAFに入会されることをお勧めします。

けん引のとき

車の故障などでけん引が必要な場合は、安全のため必ずスバル販売店に依頼してください。旅先では、「スバルサービスネットワーク」を参考に、スバル販売店、スバル指定サービス工場やJAFロードサービスなどに依頼してください。

けん引してもらおうとき

■けん引方法の違い

次の方法でのけん引が可能です。

- 車載（4輪持ち上げ）
トランスミッション（変速機）や駆動装置が故障したと思われる場合は車載してください。
- ロープけん引
マニュアル車は可能ですが、CVT車は次の条件をお守りください。お守りいただかないと、駆動装置が損傷するおそれがあります。
 - － 速度30km/h以下で走行してください。
 - － 走行距離は30kmを超えないでください。
- 前輪持ち上げけん引
2WD車のみ可能です。



注意

- AWD車の場合、前輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。



600190

- 全車後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

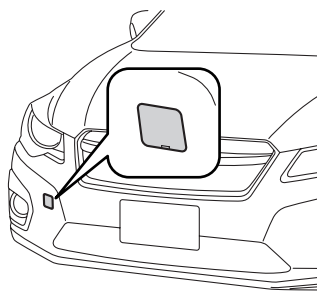


600191

■ロープによるけん引

やむを得ず4輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、フロントバンパーにけん引フックを取り付けます。

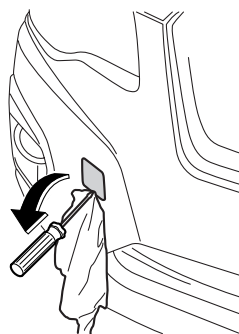
けん引時は、けん引フックにソフトロープをかけて行ってください。



701076

●けん引フックの取り付けかた

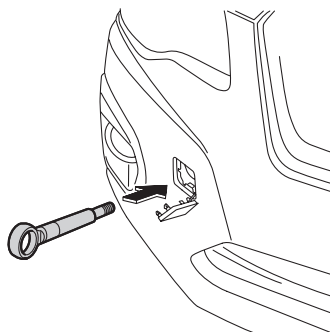
- ①バンパーに傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。



701077

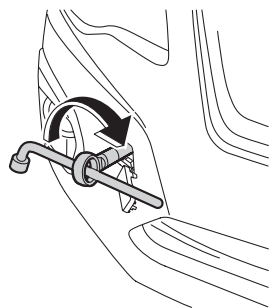
- ②けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

☆8-2ページ参照



701078

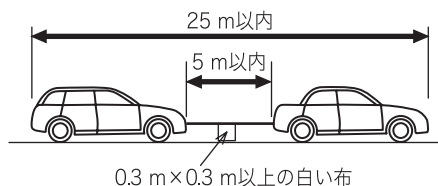
- ③ ホイールナットレンチなどを使って、確実にけん引フックを締め付けてください。



800560

●けん引方法

- ① ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布 (0.3 m×0.3 m以上) をつけます。



600023


- ② セレクトレバーを **N** (CVT車)、もしくはチェンジレバーを“N” (マニュアル車) にします。
 ③ エンジンスイッチをONにします。
 ④ 駐車ブレーキを解除し、けん引します。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

警告

- エンジンスイッチをLOCK (OFF) にしたり、キーを抜いたりしないでください。ハンドル操作ができなくなり思わぬ事故につながります。
- けん引フックはけん引時以外に使用しないでください。
- けん引フックはけん引後、必ず取り外してください。そのままにしておくと前面に衝撃を受けたときエアバッグが正常に作動しないことがあります。

 **注意**

- セレクトレバーを **N** (CVT車)、もしくはチェンジレバーを “N” (マニュアル車) にしてください。
- エンジンスイッチをONにしてハンドルが自由に動くことを確認してください。
- 移動の途中に長い下り坂や急な下り坂があるときは、車載 (4輪持ち上げ) でのけん引を依頼してください。ロープけん引中はエンジンブレーキがまったく効かないため、下り坂でブレーキを踏み続けるとブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。
- 急発進などでロープに衝撃を与えないよう運転してください。
- エンジンを止めてけん引する場合は、次のような現象が起きます。充分注意して操作してください。
 - ー ブレーキ倍力装置が働かず、ブレーキの効が悪くなります。
 - ー パワーステアリングが働かず、ハンドル操作が重くなります。
- 駐車ブレーキを確実に解除してください。
- トランスミッション (変速機) および駆動装置、走行装置が故障したと思われるときは必ず車載で (4輪を持ち上げて) けん引してください。
- 故障の内容によりけん引できない場合があります。

 **アドバイス**

ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻くなどして行ってください。
そのままけん引されると、バンパーを損傷するおそれがあります。

他車をけん引するとき

やむを得ず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。
また、溝に落ちた車の引き上げは行わないでください。

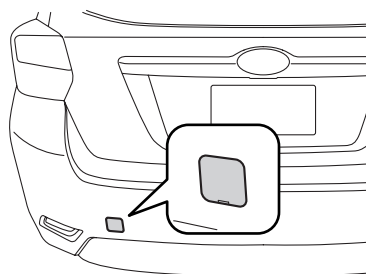


アドバイス

- けん引時は、フックにソフトローブをかけて行ってください。
- バンパーフェース下面の傷つきを防止するため、ソフトローブとバンパーフェース下面のローブとのこすれ部分にガムテープなどを貼りつけたり、布を巻くなどの保護処置をしてください。

■けん引フックの取り付け位置

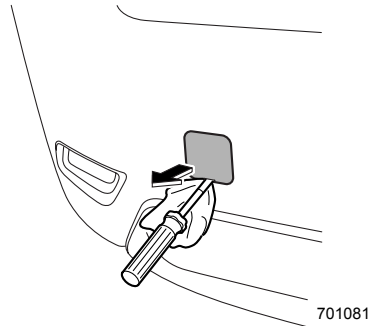
リヤバンパー左下にあります。



701080

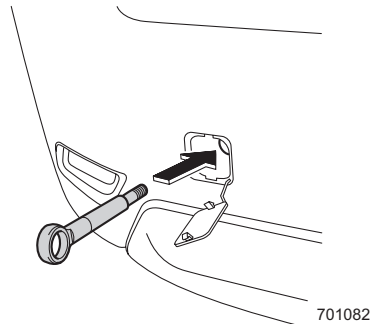
■けん引フックの取り付けかた

- ①バンパーに傷がつかないようにマイナーストライバーの先端をビニールテープや布で覆い、カバーの切り欠きに差し込み、てこの原理でカバーを取り外してください。

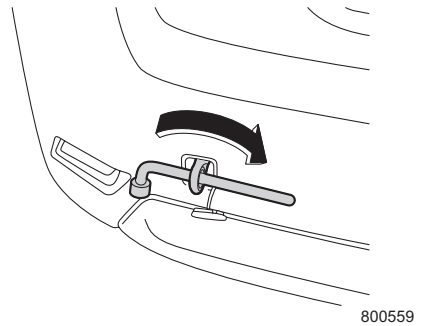


- ②けん引フックをジャッキホルダーから取り出し、取付部にねじ込んでください。

☆8-2ページ参照



- ③ホイールナットレンチなどを使って、奥まで確実にけん引フックを締め付けてください。



オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたとき

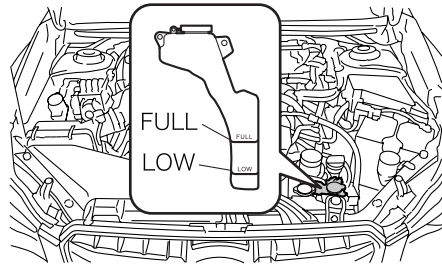
このようなときは、オーバーヒートです。

- 水温警告灯が赤色に点滅または点灯したとき
- エンジンの力が急に落ちたとき
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっているとき

☆3-41ページ参照

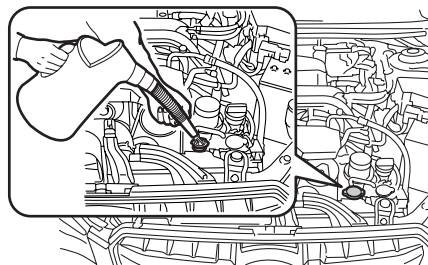
■対処のしかた

- ① 後続車に注意して安全な場所に車を止め、エアコンを止めます。
- ② 車両の状態に応じて次の処置を行ってください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるときは、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
 - エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがないときは、エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。冷却ファンが回っている場合は水温警告灯が消灯し、時間が充分経過してからエンジンを止めます。冷却ファンが回っていない場合は、すぐにエンジンを止めてスバル販売店に連絡してください。
- ③ エンジンが冷えてから、冷却水量、水漏れなどを点検します。
- ④ リザーバタンク内の液量を確認し、冷却水が不足しているときは、補給します。冷却水はFULL位置まで補給してください。



701084

- ⑤ ラジエーターキャップを開け、冷却水を補給してください。

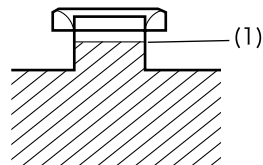


701085

次ページへ ⇒

⇒前ページより

冷却水はキャップの口元まで（イラストの（1）の位置まで）補給します。



700759

警告

- エンジンルームから水漏れ、水蒸気の吹き出しがあるとき、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンが高温になっているため、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。
- ラジエーターや補助タンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出して、やけどなど重大な傷害につながるおそれがあり危険です。キャップを開けるときは、ラジエーターや補助タンクが充分に冷えてから、布きれなどでキャップを包みゆっくりと開けてください。

注意

冷却水は、エンジンが熱いときに入れしないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。冷却水は、エンジンが充分に冷えてからゆっくりと入れてください。

アドバイス

冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。補給する水は、軟水または水道水を使用してください。

⑥ 早めに最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

事故が起きたとき

あわてず次の処置をしてください。

対処のしかた

①続発事故の防止につとめてください

他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を移動させ、エンジンを止めます。

②負傷者の救護につとめてください

負傷者がいる場合は、医師、救急車が到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

③警察へ届け出をしてください

事故が発生した場所、状況、負傷者の有無や負傷の程度などを連絡します。

④相手方の確認とメモをおとりください

相手方の氏名、住所、電話番号などを確認してメモします。

同時に事故状況もメモしておいてください。

⑤スバル販売会社と保険会社へ連絡してください

ご購入されたスバル販売会社と加入の保険会社へ連絡をします。

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーが上がったとき

次のようなときは、バッテリー上がりです。

- スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからないとき
- ランプがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さいとき

■ 対処のしかた

押しがけによる始動はできません。

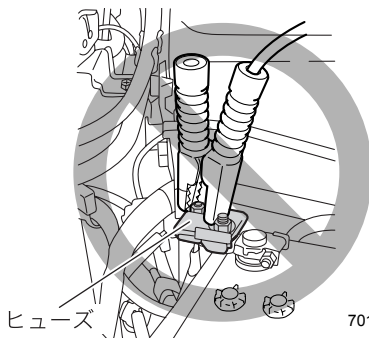
救援車を依頼しブースターケーブルを接続してエンジンを始動してください。

警告


- ブースターケーブルをつなぐ前にバッテリー液量を確認してください。バッテリーの液量がバッテリー側面に示されている下限（LOWER LEVEL）以下で充電または使用を続けると、容器内の各部位の劣化を早め、バッテリーの寿命を縮めたり、発熱や破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。バッテリー補充液を補充してから行ってください。
- ブースターケーブルを接続するときは、必ず次のことをお守りください。
 - ⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
 - ⊕端子と⊖端子を接触させないでください。
 - 自車のバッテリーの⊖端子にケーブルを接続しないでください。

– バッテリー⊕端子付近にあるヒューズなどには絶対にケーブルを接続しないでください。ヒューズなどが破損するおそれがあります。

火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。また、電子機器やエンジン部品を傷めます。



- バッテリーに火気を近づけないでください。バッテリーからは、可燃性のガスが発生しているので、引火爆発するおそれがあります。
- バッテリーを充電するときには、全てのキャップを外し、通気のよい場所で充電してください。発生したガスが充満すると引火爆発するおそれがあります。
- バッテリー液は希硫酸です。バッテリー液が身体につかないように気をつけてください。目や皮膚につくと重大な傷害につながるおそれがあります。万一付着したときは、すぐに大量の水で洗浄し、医師の診断を受けてください。

 **注意**

ブースターケーブルを接続するときは、次のことを必ずお守りください。

- 12 Vのバッテリーと接続してください。
- ケーブルがオルタネーターベルトなどの可動部品に接触しないようにしてください。
- エンジン回転中にバッテリー端子を外さないでください。電子機器が損傷するおそれがあります。
- キーレスアクセス&プッシュスタート装備車の場合、バッテリー上がりおよびバッテリー交換後は、ステアリングロックシステムの初期化を行わないとエンジンが始動しない場合があります。始動しない場合は、ステアリングロックの初期化を行ってください。

☆3-4ページ参照

●ブースターケーブルの接続手順

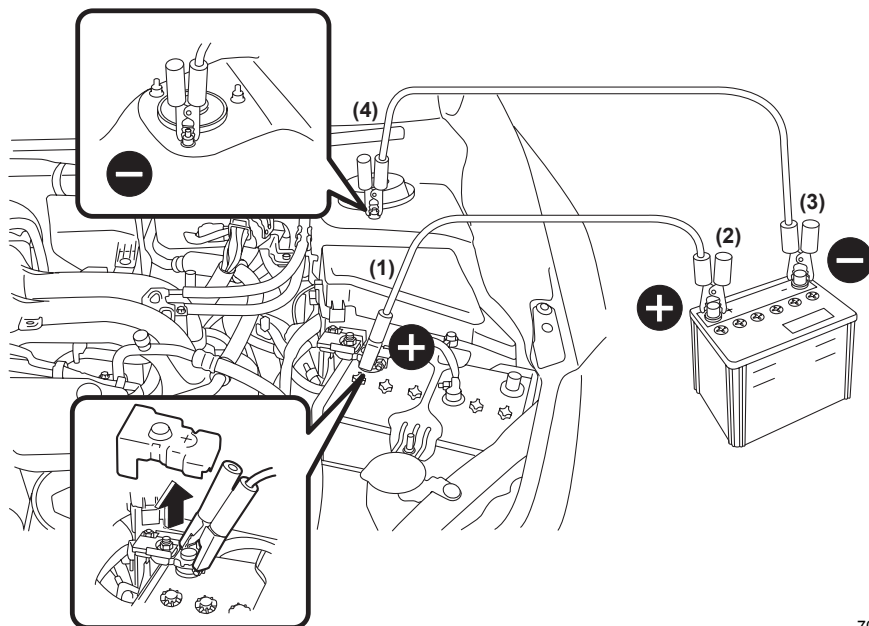
- ① ⊕端子のカバーを外し、赤いブースターケーブルの一方を自車のバッテリーの⊕端子につなげます。(1)
- ② 赤いブースターケーブルのもう一方を救援車のバッテリーの⊕端子につなげます。(2)
- ③ 黒いブースターケーブルの一方を救援車のバッテリーの⊖端子につなげます。(3)
- ④ 黒いブースターケーブルのもう一方を自車の車体(バッテリーから離れたボルトなど)につなげます。(4)
- ⑤ 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
- ⑥ 自車のエンジンをかけます。
- ⑦ ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。



アドバイス

最初に最寄りのスバル販売店で点検を受けてください。

☆9-2ページ参照



701120

ヒューズの点検・交換

バッテリーが上がっていないのに、ランプが点灯しない、電気装置が動かないときは、ヒューズ切れや電球切れが考えられます。

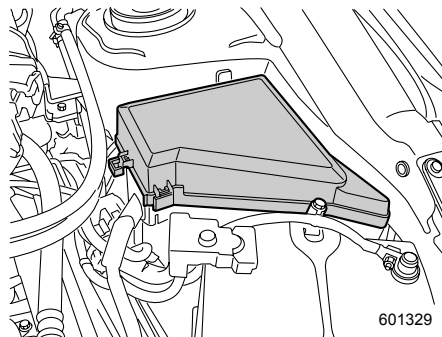
この場合、以下の手順で確認してください。

- ① エンジンスイッチをLOCKまたはOFFにします。
- ② ヒューズが切れていないかを点検します。
 - 故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏および室内のコイントレイ裏の表示で確認し、点検します。
- ③ 切れているときは、ヒューズを交換します。

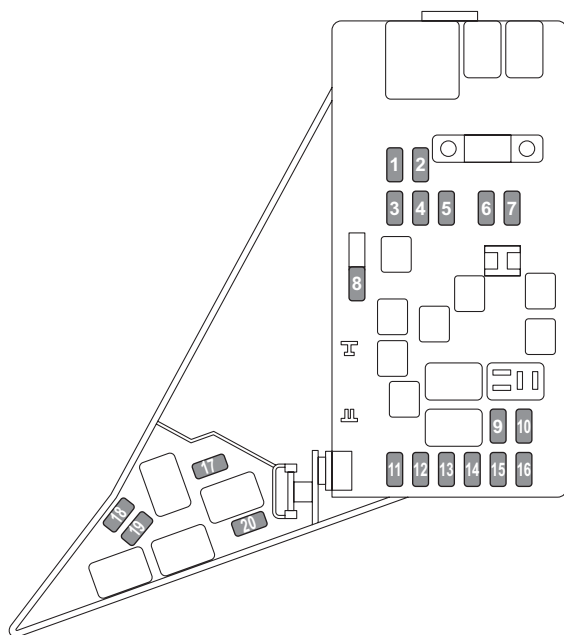
■ヒューズボックスの位置

●エンジンルーム内

ボンネットを開け、ヒューズボックスカバーを取り外します。



エンジンルームヒューズボックス

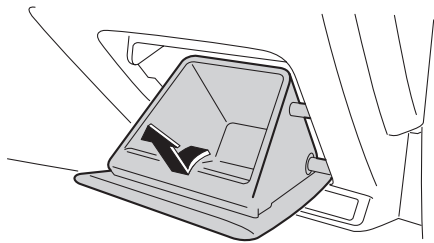


601330

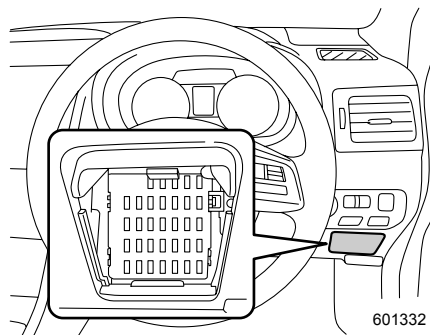
No.	ラベル表示	内容	容量 (A)
1	ABS SOL	ABS VDCユニット	30
2	MAIN FAN	ラジエーターメインファン	25
3	SUB FAN	ラジエーターサブファン	25
4	空き	—	—
5	空き	—	—
6	H/L LO	ヘッドランプ ロービーム	30
7	H/L HI	ヘッドランプ ハイビーム	15
8	BACK UP	バックアップ	20
9	HORN	ホーン	15
10	R.DEF	リヤウインドウデフォグガー	25
11	FUEL PUMP	フェューエルポンプ	15
12	CVT+B	CVTコントロールユニット	20
13	EGI+B	エンジンコントロールユニット	7.5
14	HAZARD	ターンハザード	15
15	LIGHTING	パーキングランプ	15
16	ALT-S	オルタネーター	7.5
17	空き	—	—
18	空き	—	—
19	H/L LO RH	ヘッドランプ右側	15
20	H/L LO LH	ヘッドランプ左側	15

●室内

コイントレイを開け、引き取り外します。

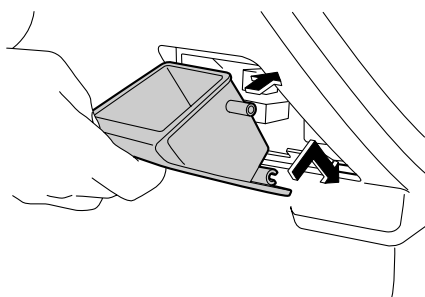


601331



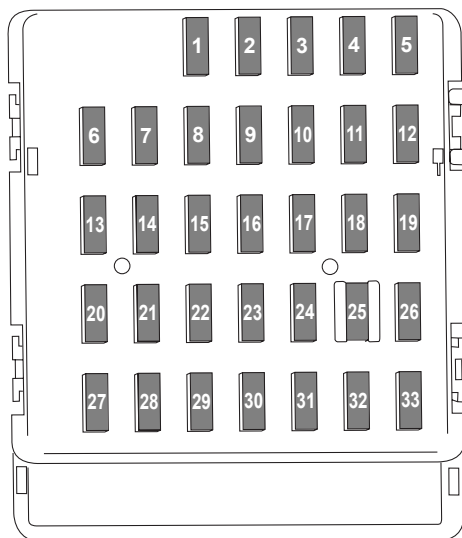
601332

取り付けるときは、下側のツメを確実に合わせて取り付けてください。



601333

室内ヒューズ&リレーボックス



600701

No.	ラベル表示	内容	容量 (A)
1	R.FOG TRAIL	リヤフォグランプ	20
2	空き	—	—
3	DOOR LOCK	集中ドアロックスイッチ、 キーレスエントリー	15
4	IG2	フロントワイパーデアイサーリレー	10
5	METER IG	コンビメーター	10
6	MIR	リモコンミラー	7.5
7	UNIT +B	統合ユニット	15
8	STOP	ストップランプ	15
9	WIPER DEICE	フロントワイパーデアイサーリレー	15
10	D-OP +B	OP用パワーサプライ	7.5
11	TURN IG	ターンシグナルユニット	7.5
12	UNIT IG1	コントロールユニット	15
13	12 V PLUG	電源ソケット	20

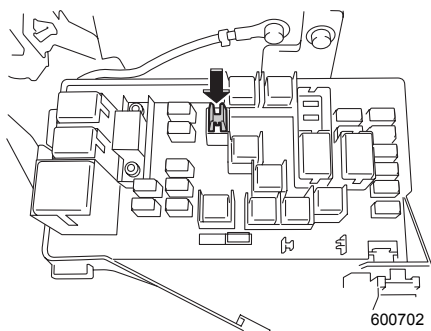
No.	ラベル表示	内容	容量 (A)
14	TAIL CLEARANCE	リヤコンビランプ	15
15	BKUP +B	キーレスユニット	10
16	ILM	イルミネーション	7.5
17	SEAT HTR	シートヒーター	15
18	LAMP IG	バックアップランプ	10
19	EC DRL	—	7.5
20	CIGAR	シガレットライター、電源ソケット	10
21	START	スターターリレー	7.5
22	A/C IG	エアコン	10
23	空き	—	—
24	AUDIO NAVI	オーディオ	10
25	SRS AIR BAG	SRSエアバッグシステムメイン	15
26	IG1	パワーウィンドゥリレー	7.5
27	BLOWER	ブローアファンリレー	15
28	BLOWER	ブローアファンリレー	15
29	F. FOG	フロントフォグランプリレー	15
30	空き	—	—
31	ACC	オートエアコンユニット	7.5
32	CLUTCH	ステアリングロックユニット	7.5
33	UNIT IG2	ABS VDCユニット	7.5

■ヒューズの点検・交換

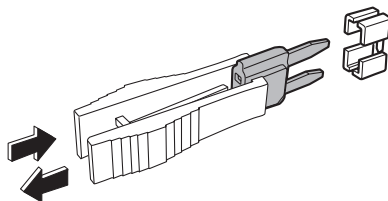
●ヒューズの外しかた

故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスカバー裏および室内のコイントレイ裏の表示で確認します。

ヒューズプラーをエンジンルーム内のヒューズボックスから抜き取ります。

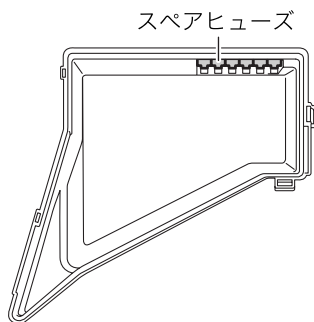


ヒューズプラーでヒューズをつかみ、抜きます。



●ヒューズが切れているとき

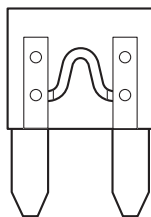
ヒューズが切れているときは、エンジンルーム内のヒューズボックスカバーの裏側にあるスペア (7.5 A、10 A、15 A、20 A、25 A、30 A各1個) と交換してください。



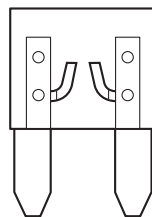
ヒューズボックスカバーの裏

切れたヒューズと同じ容量（アンペア数）のヒューズと交換してください。

切れていない状態



切れている状態



601389

⚠ 注意

ヒューズを交換するときは必ず次のことをお守りください。

- 必ずエンジンスイッチをLOCKまたはOFFにしてください。ONやACCの場合、ショートするおそれがあり危険です。
- 指定容量のヒューズに交換してください。指定以外のヒューズを使うと故障につながります。
- ヒューズの代わりに針金や銀紙などは絶対に使わないでください。配線の過熱や焼損の原因になります。

🏠 アドバイス

- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- スペアヒューズと交換した後は、スバル販売店でスペアヒューズの補充をしてください。
- ヒューズ交換後はスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒューズが切れていないとき

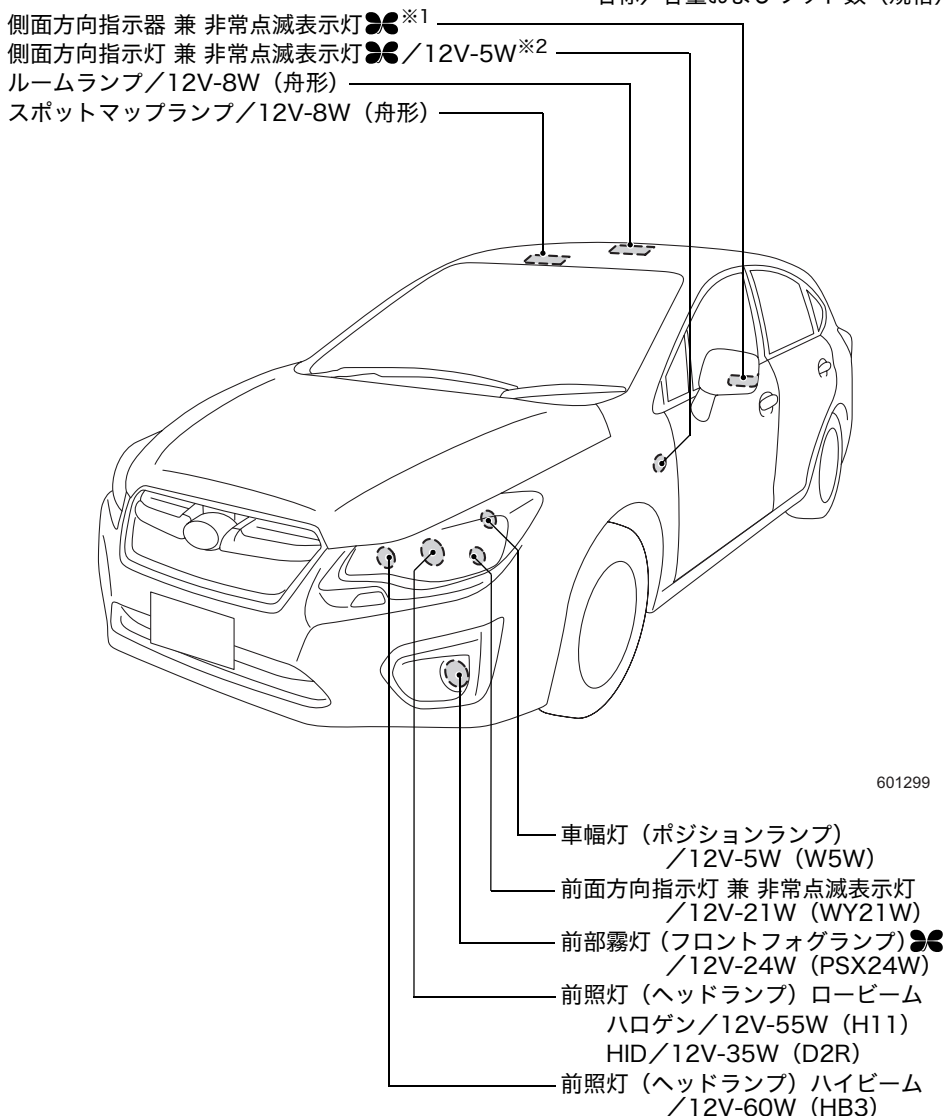
- ランプ類が点灯しないときは、電球を点検し、切れているときは交換してください。

☆8-50ページ参照

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。
- ランプ類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、スバル販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

交換方法が記載されていない電球の交換につきましてはスバル販売店にご相談ください。
名称/容量およびワット数（規格）



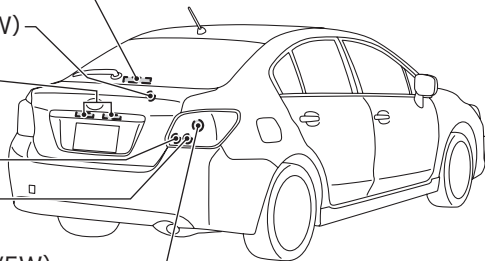
※1 LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

※2 電球交換時はランプと一体になります。スバル販売店にご相談ください。

名称／容量およびワット数（規格）

<4ドア>

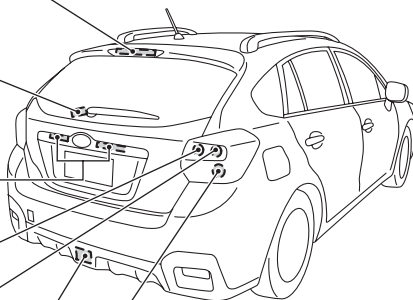
- ハイマウントストップランプ（室内置き）
／12V-21W（W21W）
- トランクルームランプ／12V-5W（W5W）
- 番号表示灯（ライセンスランプ）
／12V-5W（W5W）
- 後退灯／12V-16W（W16W）
- 後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯
／12V-21W（WY21W）
- 尾灯 兼 制動灯／12V-5W/21W（W21/5W）



- ハイマウントストップランプ※1

<5ドア>

- カーゴルームランプ／12V-5W（W5W）
- 番号表示灯（ライセンスランプ）
／12V-5W（W5W）
- 後退灯／12V-16W（W16W）
- 後面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯
／12V-21W（WY21W）
- 後部霧灯（リヤフォグランプ）
／12V-21W（W21W）
- 尾灯 兼 制動灯／12V-5W/21W（W21/5W）



800557

万
一
の
と
き

※1 LEDタイプとなっています。交換はスバル販売店にご相談ください。

警告

- HIDヘッドランプは高電圧を使用しています。不適切な取り扱いや分解を行うと、感電するおそれがあります。HIDヘッドランプのバルブ交換はスバル販売店にご依頼ください。
- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。やけどをするおそれがあります。

注意

- 定められたワット数のものと交換してください。大きなワット数のものに交換すると、車両火災の原因につながるおそれがあります。
- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると損傷してガラスが飛び散ることがあります。取り扱いには十分に注意してください。
- ハロゲンバルブの電球の表面に手などが触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤のうすい水溶液を柔らかい布に含ませてよく拭き取ってください。

アドバイス

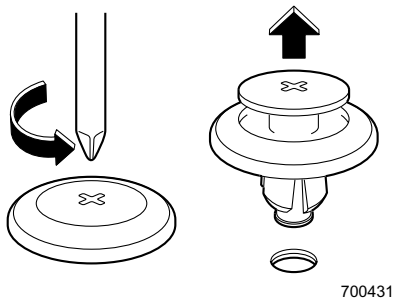
- 電球が点灯しない場合、ヒューズが切れていることがあります。ヒューズの点検も行ってください。
- ☆8-43ページ参照
- ヘッドランプ、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差による空気中の水分が付着するもので、雨天時などに窓ガラスが曇ると同様の現象であり、機能上の問題はありせん。ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときや、ランプ内に水がたまっているときは、スバル販売店にご相談ください。
 - 電球を交換するときに、部品の破損などが心配な方はスバル販売店にご相談ください。
 - 室内灯を外す場合などでマイナスドライバーを使用するときは、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。
 - 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。電球のソケットなどが確実に取り付けられていないと、水が入る原因になります。
 - 電球を交換したときは、点灯、消灯、点滅を確かめてください。
 - ヘッドランプを交換したときは法律で定められた光軸調整が必要となります。スバル販売店にご相談ください。

- ランプ本体をネジで締め付けるとき、締め過ぎてランプ本体を割らないように気をつけてください。

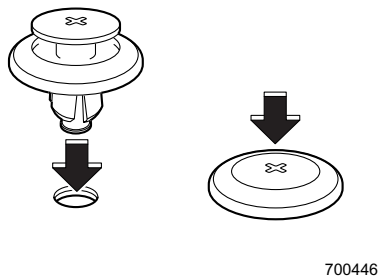
交換電球によりクリップを外す作業があります。クリップは6種類ありますので、それぞれ次の手順で取り外してください。

タイプA

- ① プラスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
- ② クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

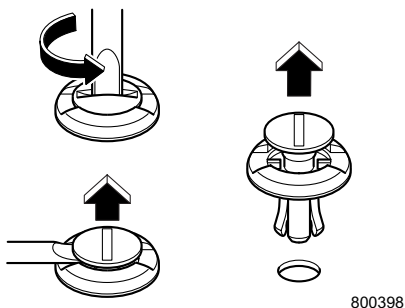


- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。



タイプB

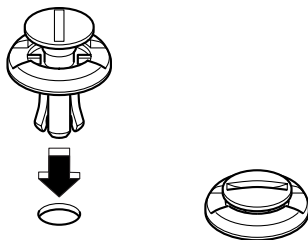
- ① マイナスドライバーでクリップ中央部を反時計回りに回します。
- ② マイナスドライバーでクリップ中央部を引き出します。
- ③ クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。



次ページへ ⇒

⇒前ページより

- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。



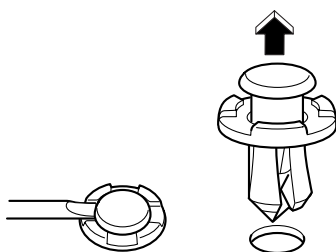
800399

タイプC、タイプD

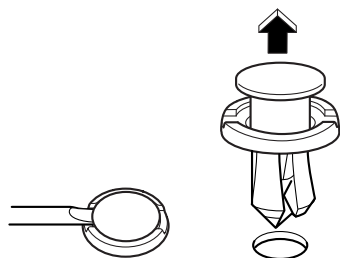
- ① マイナスドライバーでクリップ中央部を引き出します。
- ② クリップ中央部が飛び出てきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

タイプC

タイプD



600835

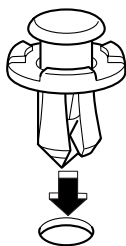


800394

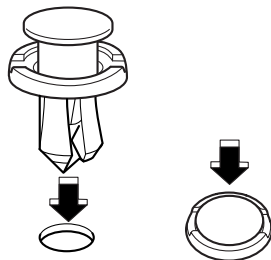
- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

タイプC

タイプD



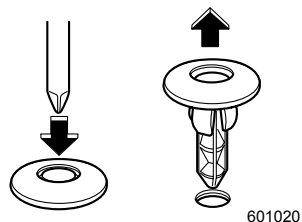
600836



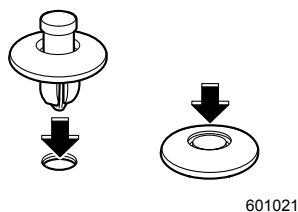
800395

タイプE

- ① プラスドライバーでクリップ中央部を押し込みます。
- ② クリップが飛びでてきたらクリップ全体を引っ張り、外します。

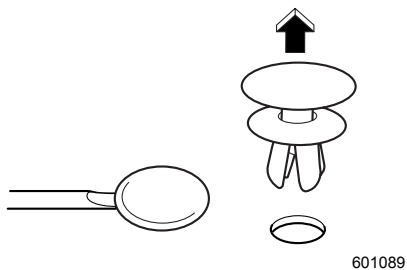


- クリップを取り付けるときは、中央部を飛びだした状態にします。そのまま差し込み、クリップ中央部を押し込みます。

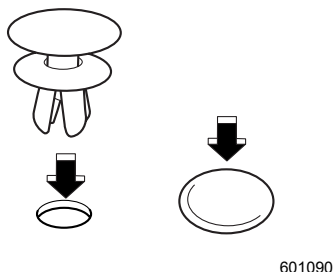


タイプF

- ① マイナスドライバーでクリップ頭部分を引き出します。
- ② クリップ頭部分が飛びでてきたらクリップ全体を引っ張り、外します。



- クリップを取り付けるときは、外した状態のまま差し込み、クリップ頭部分を押し込みます。



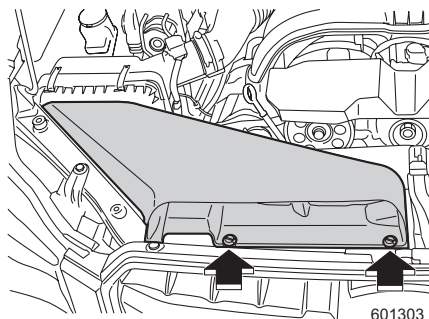
- 電球交換作業後は、元の状態に戻してください。

■前照灯（ヘッドランプ）ハイビーム

●準備

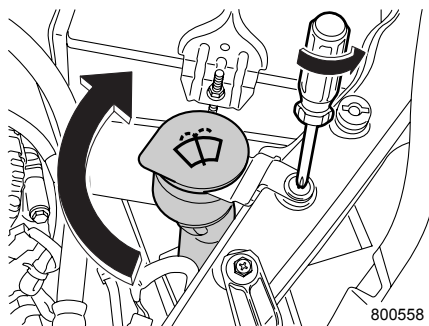
運転席側の電球を交換するときは、クリップを外し、エアインテークダクトを外します。

☆8-53ページ参照



601303

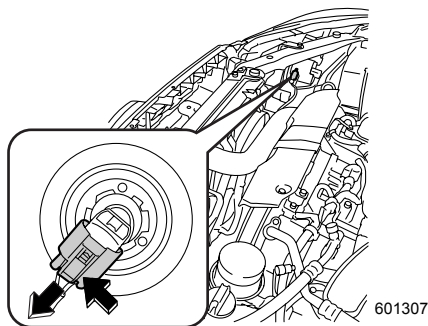
助手席側の電球を交換するときは、ウォッシャータンクのクリップを外し、注入口を回転して作業してください。



800558

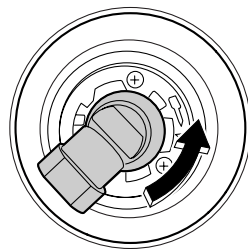
●ハイビーム

① コネクターを抜きます。



601307

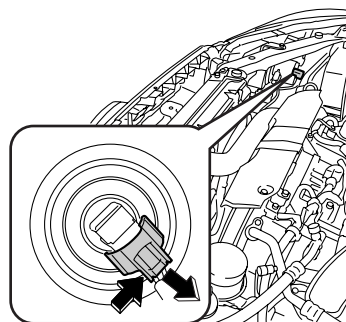
- ② ソケットを反時計回りに回し、ソケットを
引き抜きます。



601308

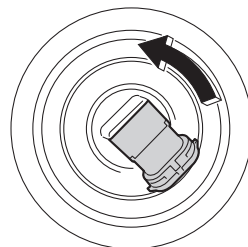
■前照灯 (ヘッドランプ) ロービーム (ハロゲンヘッドランプ装備車) ■

- ① コネクターを抜きます。



601305

- ② ソケットを反時計回りに回し、ソケットを
引き抜きます。

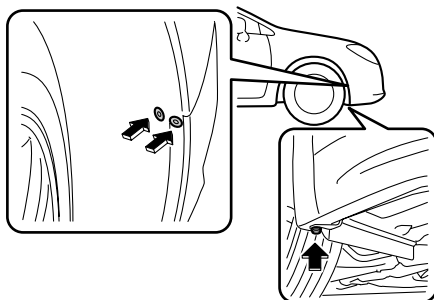


601306

■車幅灯、前面方向指示灯 兼 非常点滅灯、前部霧灯（フロントフォグランプ）の交換

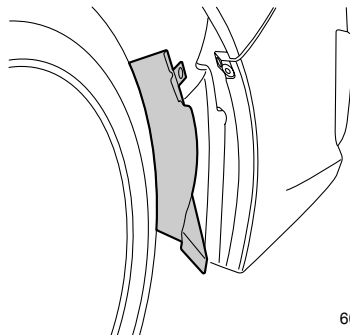
●準備

- ① エンジンをかけ、交換する電球の側と反対側にハンドルをいっぱいに回します。
- ② エンジンを停止します。
- ③ フェンダー内張りのクリップ（3本）を外します。



601309

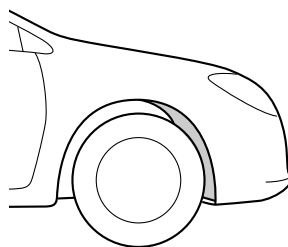
- ④ 内張りをめくります。



601310

🏠 アドバイス

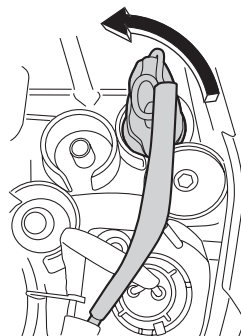
電球交換作業後は、フェンダー内張りを元の状態に戻してください。



601311

●車幅灯

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

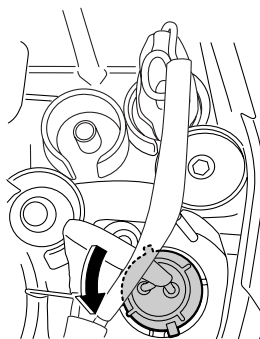


601312

- ② ソケットから電球を引き抜きます。

●前面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

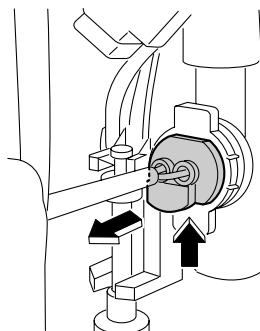


601313

- ② ソケットから電球を引き抜きます。

●前部霧灯 (フロントフォグランプ)

- ① コネクターを外します。



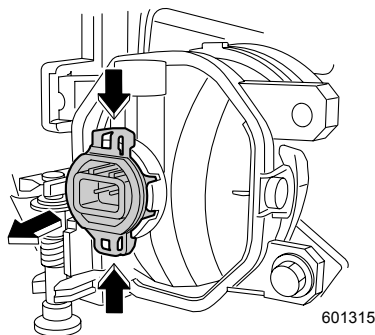
601314

次ページへ ⇒

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

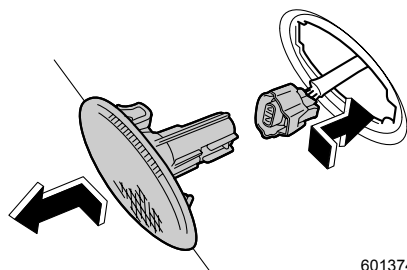
⇒前ページより

② ソケットを引き抜きます。



■側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯

① 車両の前方に向かってランプを押し、ランプを車両から取り外します。



② ソケットからコネクターを引き抜きます。



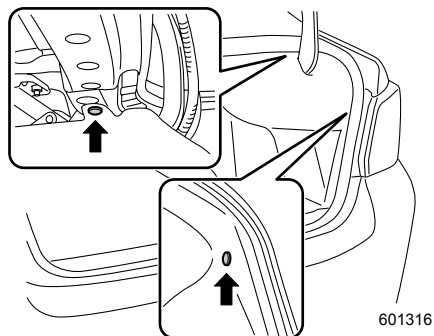
アドバイス

側面方向指示灯 兼 非常点滅表示灯は一体式となっています。分解はできませんので、ランプ一体で交換してください。

■後退灯、後面方向指示灯 兼 非常点滅灯、尾灯 兼 制動灯

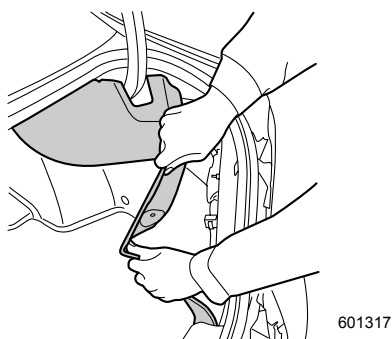
●4ドア

- ① トランクリッドを開け、クリップ (2本) を外します。

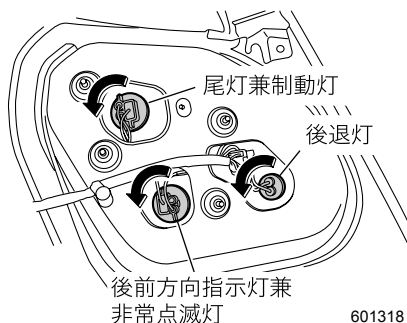


⚠ 注意

トランクルームの内張りは、図のように慎重に外してください。内張りを損傷することがあります。



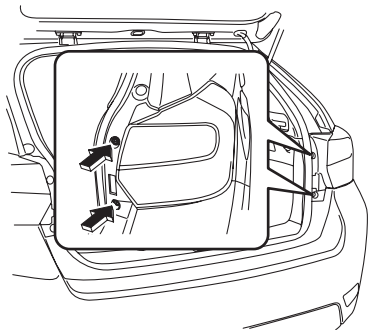
- ② 切れている電球のソケットを反時計回りに回しソケットを引き抜きます。



- ③ ソケットから電球を引き抜きます。

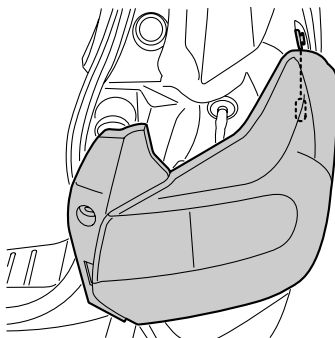
●5ドア

- ① リヤゲートを開け、ネジ(2本)を外します。



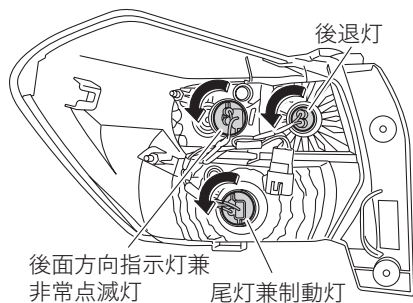
601319

- ② ランプ本体を外します。



601320

- ③ 切れている電球のソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。



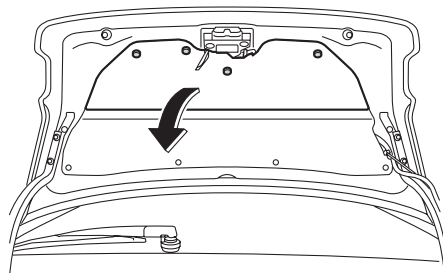
601321

- ④ ソケットから電球を引き抜きます。

■番号表示灯（ライセンスランプ）

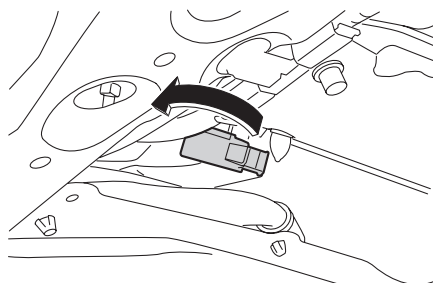
●4ドア

- ① トランクを開け、内張りのクリップ（4本）を外します。



601322

- ② ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

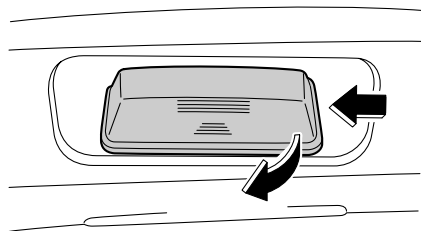


601323

- ③ ソケットから電球を引き抜きます。

●5ドア

- ① 番号表示灯カバーの右側に指を差し込み、いったん左に押してから引き出して、ランプ本体を取り外します。



601324

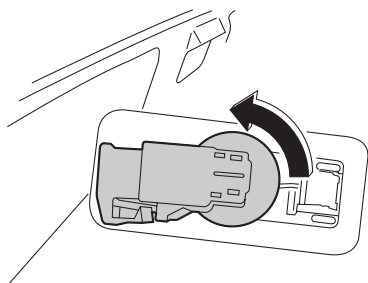
次ページへ ⇒

万
一
の
と
き

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

⇒前ページより

- ② ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。

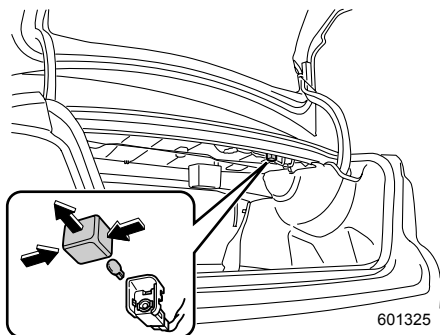


600732

- ③ ソケットから電球を引き抜きます。

■トランクルームランプ (4ドア)

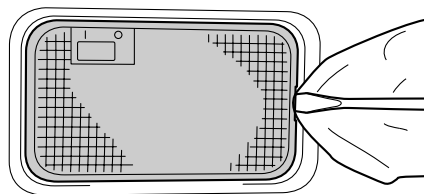
- ① トランクリッドを開けます。
- ② レンズの側面を押しながら、レンズを手前に引き抜きます。
- ③ ソケットから電球を引き抜きます。



601325

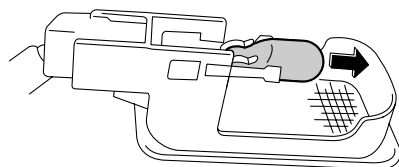
■カーゴルームランプ (5ドア)

- ① 本体の縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



601326

- ② 電球を引き抜きます。



600988

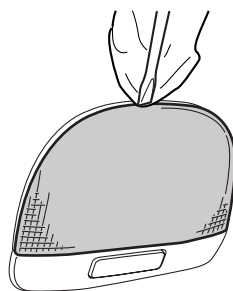


アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

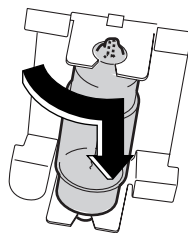
■ルームランプ

- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。



800387

- ② 電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。



600963



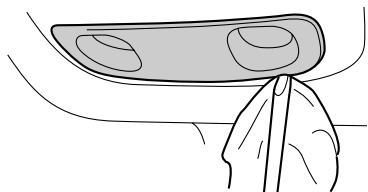
アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

■スポットマップランプ

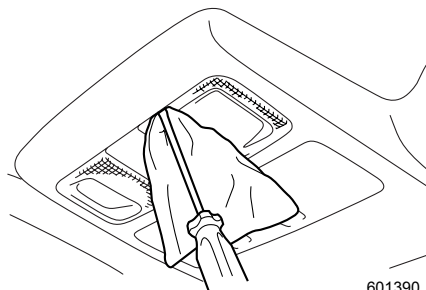
- ① レンズの縁にマイナスドライバーを差し込み、レンズを取り外します。

タイプA



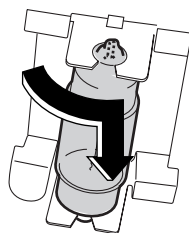
601327

タイプB



601390

- ② 電球両端のツメが垂直になるように、電球を回し、引き抜きます。



600963

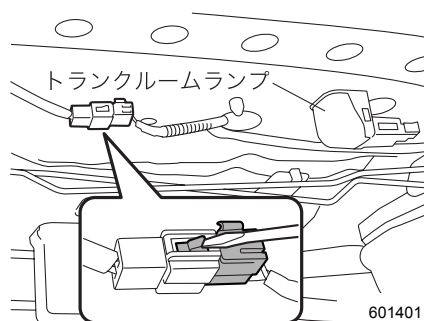


アドバイス

レンズを外すときは傷つけないよう、なるべく細くて薄いマイナスドライバーを使ってください。

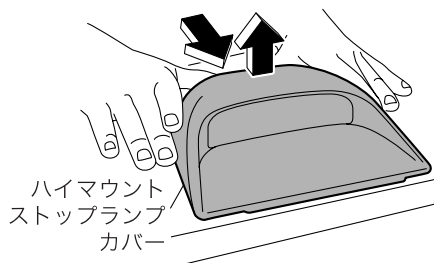
■ハイマウントストップランプ (4ドア：室内置き)

- ① トランクを開け、トランクルームランプ近くのコネクターをマイナスドライバーを使用して取り外します。



601401

- ② 車内後席に移動し、ハイマウントストップランプカバーを手で後方へ押しながら、カバーの前方を持ち上げて取り外します。

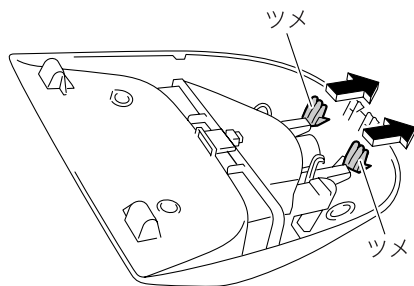


601402

注意

このとき、カバーから手が滑らないように注意してください。思わぬけがをするおそれがあります。

- ③ ツメ (2か所) を取り外します。



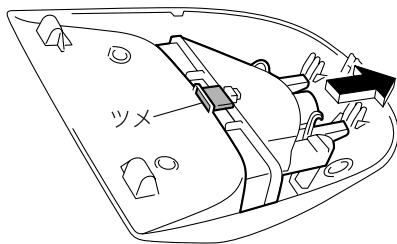
601403

次ページへ ⇒

ランプ類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

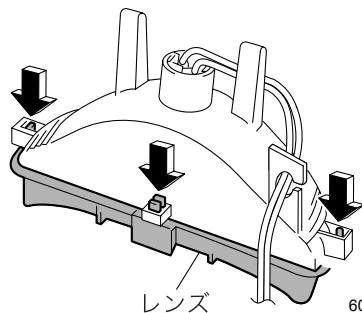
⇒前ページより

- ④ ツメを外してからハイマウントストップランプ本体を取り外します。



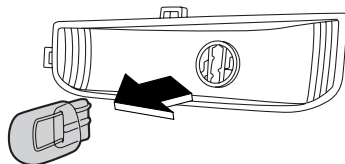
601404

- ⑤ ツメ (3か所) を外し、レンズを取り外します。



601405

- ⑥ 電球を引き抜きます。



601406

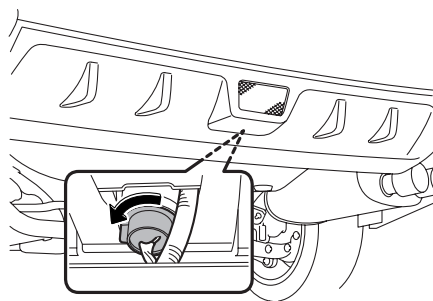
■後部霧灯（リヤフォグランプ装備車）



警告

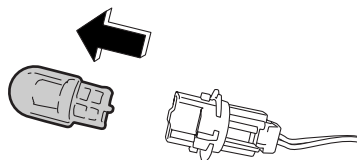
やけどの危険がありますので排気管には触れないように注意してください。

- ① ソケットを反時計回りに回し、ソケットを引き抜きます。



800501

- ② ソケットから電球を引き抜きます。



601140

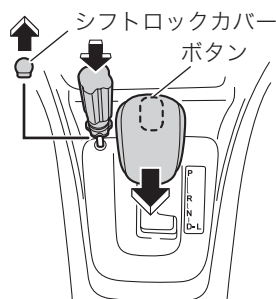
■その他のランプ

スバル販売店へ交換を依頼してください。

セレクトレバーが動かないとき（CVT車）

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーを[P]から動かすことができないまたは[P]へ動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② シフトロックカバーを外します。
マイナスドライバーを使用する場合は、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。
- ③ シフトロック解除ボタンをドライバーなどで押しながら、セレクトレバーのボタンを押してレバーを操作します。



101764

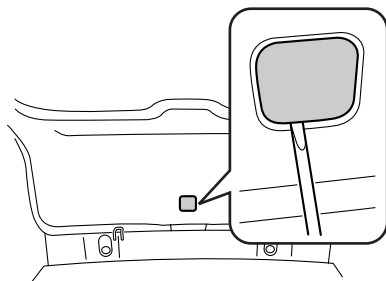
🏠 アドバイス

- セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店に連絡してください。
- 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。

リヤゲートの解錠ができなくなったとき (5ドア)

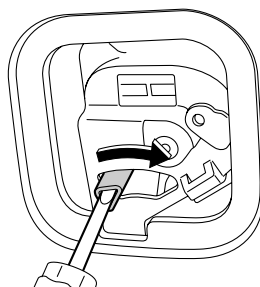
バッテリー上がりや集中ドアロックシステムの故障などでリヤゲートの解錠ができなくなった場合は、応急処置用解錠レバーを操作して車室内から解錠することができます。

① リヤゲートトリムのカバーを外します。



202095

② マイナスドライバーなどを使用してレバーを矢印の方向に動かし、リヤゲートを開けます。



800487



注意

- 応急処置用解錠レバーは指で操作しないでください。けがをするおそれがありますので、必ずドライバーなどを使用してください。

アクセスキーが正常に作動しないとき

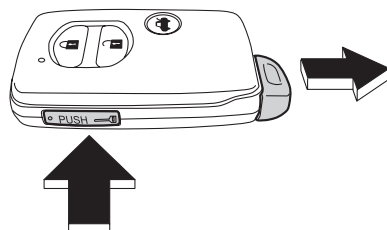
強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池残量が少なくなり施錠・解錠およびエンジン始動ができなくなった場合は、次の方法で施錠・解錠およびエンジン始動をしてください。また電池がなくなった場合はアクセスキーの電池を交換してください。

☆7-20ページ参照

■メカニカルキーによる施錠・解錠

ボタンを押し、メカニカルキーを取り出します。

メカニカルキーで運転席ドアを施錠・解錠します。



601344

🏠 アドバイス

- 盗難警報装置が作動している場合は警報が鳴ります。
アクセスキーの電池が少ない状態で警報が作動した場合は「アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動」を参照して電源ONまたはエンジン始動をしてください。

☆8-73ページ参照

- 紛失防止のため、使用後は必ずメカニカルキーをアクセスキーに装着してください。

■アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。
- ③ ブレーキペダルを踏みます。

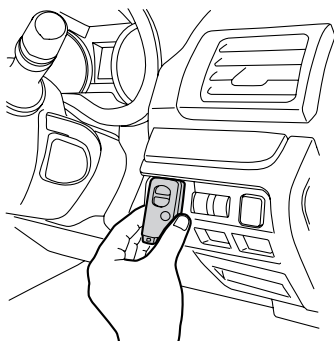
- ④ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。

アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー（ピッ）が鳴り、電源が入ります。ただし車両状態により、入る電源は次のように異なります。

- 電池切れまたは電波妨害のとき、電源はONになります。
- キーレスアクセス機能が停止状態のとき、電源はACCになります。

- ⑤ 電源がACCまたはONになってから次の操作を行います。

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押します。
- 電源をONにするときは、ブレーキペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押します（電源がACCのとき）。



202078

⚠ 注意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びた物、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

🏠 アドバイス

- ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザーが鳴らない場合があります。ブザーが鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。
- アクセスキーのボタン側をプッシュエンジンスイッチに近づけた場合、反応しない場合があります。

■アクセスキーが正常に作動しないときのエンジン始動(マニュアル車)

強い電波またはノイズがある場合や、アクセスキーの電池が少なくなった場合、次の方法でプッシュエンジンスイッチを操作して電源ONまたはエンジン始動が行えます。

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラルであることを確認します。
- ③ クラッチペダルを踏みます。

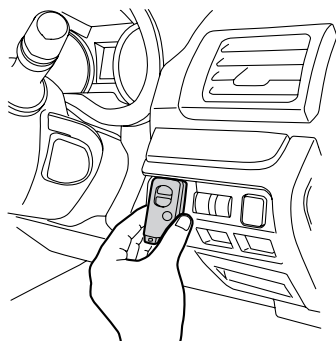
- ④ アクセスキーのボタン側を手前に向けて、アクセスキーをプッシュエンジンスイッチに触れるまで近づけます。

アクセスキーと車両の通信が完了するとブザー音(ピッ)が鳴り、電源が入ります。ただし車両状態により、入る電源は次のように異なります。

- 電池切れまたは電波妨害のとき、電源はONになります。
- キーレスアクセス機能が停止状態のとき、電源はACCになります。

- ⑤ 電源がACCまたはONになってから次の操作を行います。

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルおよびクラッチペダルを踏んだままプッシュエンジンスイッチを押します。
- 電源をONにするときは、ブレーキペダルおよびクラッチペダルから足を離してプッシュエンジンスイッチを押します(電源がACCのとき)。



202078

⚠ 注意

アクセスキーとプッシュエンジンスイッチの間には金属、磁気を帯びた物、信号発信機などを近づけないでください。アクセスキーと車両の通信が妨害されることがあります。

🏠 アドバイス

- ドアの開閉後、しばらくして操作するとブザー音が鳴らない場合があります。ブザー音が鳴らない場合は、運転席ドアを開閉した後、15秒以内にアクセスキーをプッシュエンジンスイッチに近づけてください。
- アクセスキーのボタン側をプッシュエンジンスイッチに近づけた場合、反応しない場合があります。